

<p><b>【技術の名称】</b>                  アスコラムTYPE II                  ースラリー系機械攪拌式深層混合処理工法ー (改定3)</p>	<p>性能証明番号: GBRC 性能証明 第06-09号 改3 (更1)                  性能証明発効日: 2022年2月10日                  性能証明の有効期限: 2025年2月末日</p> <p><b>【取得者】</b>                  麻生フォームクリート株式会社</p>
---	---

**【技術の概要】**

本技術は、セメント等の固化材スラリーを吐出しながら地盤を掘削攪拌することで柱状の地盤改良体を築造する機械攪拌式深層混合処理工法である。本技術では、孔壁に対して円周方向に押し付けて静止する共回り防止翼を装備することで固化材と地盤土の共回り現象を防止し、改良体の品質の安定化を図っている。共回り防止翼の配置は、2対の攪拌翼の間に装備する場合 (type-A) と先端の掘削攪拌翼と下側の攪拌翼の間に装備する場合 (type-B) がある。

**【改定・更新の内容】**

- 新規: GBRC 性能証明 第06-09号 (2006年7月4日)  
 改定1: GBRC 性能証明 第06-09号 改 (2011年12月21日)  
 ・運用体制の変更  
 改定2: GBRC 性能証明 第06-09号 改2 (2016年2月25日)  
 ・攪拌混合装置の追加  
 ・改良径及び最大改良深度の適用範囲拡大  
 改定3: GBRC 性能証明 第06-09号 改3 (2019年2月1日)  
 ・設計基準強度の変更 (砂質土地盤および粘性土地盤: 400~2,000kN/m<sup>2</sup>)  
 ・最大施工長さの変更 (粘性土地盤: 25m)  
 ・適用地盤の追加 (ローム地盤)  
 更新: GBRC 性能証明 第06-09号 改3 (更1) (2022年2月10日)

**【技術開発の趣旨】**

深層混合処理工法では、粘性の強い改良対象土が攪拌翼に付着して一緒に回転する現象 (共回り現象) が生じて、固化材と地盤土の攪拌混合が不良となり改良体の品質に問題が生じる場合がある。本工法は、この問題の解消を意図して開発したものである。

**【性能証明の内容】**

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「アスコラムTYPE II 施工マニュアル」に従って築造される改良体は、土質に応じて 400~2,000kN/m<sup>2</sup> の設計基準強度を確保することが可能であり、配合設計および品質検査に用いる改良体コアの一軸圧縮強さの変動係数として、砂質土層、粘性土層およびローム層で 25% が採用できる。

また、本技術については、規定された施工管理体制が適切に運用され、工法が適正に使用されている。

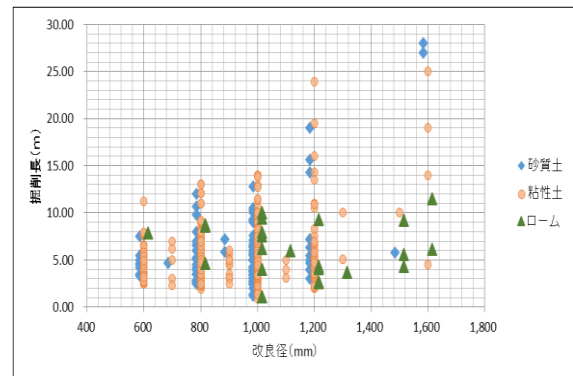


図1 改良径と掘削長の実績

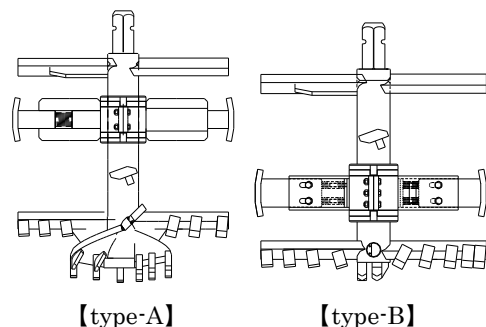


図2 攪拌混合装置

表1 改良体仕様の適用範囲

設計基準強度	砂質土地盤及び粘性土地盤 $F_c = 400 \sim 2,000 \text{ kN/m}^2$ ローム地盤 $F_c = 400 \sim 1,600 \text{ kN/m}^2$
外径	φ 600mm ~ φ 1600mm
長さ	最小長さ: 2m 最大長さ: 28m (改良対象層が砂質土地盤の場合) 25m (改良対象層が粘性土地盤の場合) 12m (改良対象層がローム地盤の場合)

**【本技術の問合せ先】**

麻生フォームクリート株式会社 技術開発部 担当者: 大川 正太郎 E-mail: ookawa-s01@aso-group.co.jp

〒211-0022 神奈川県川崎市中原区荻宿 36 番 1 号

TEL: 044-422-2061 FAX: 044-411-9927